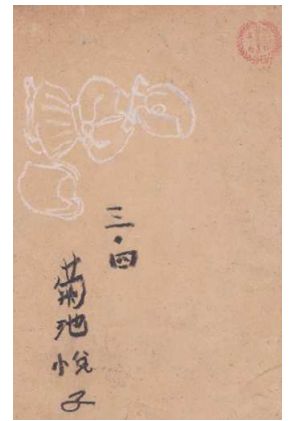


去年、妹が父の書類を整理する前に目を通してと言って様々なものを持って来た中に、一枚の絵がありました。B5 版のざら紙のような画用紙に隙間なくクレヨンで描いています。裏には必死で書いたらしい私の名がありました。小学校三年生の時の作品のようですから、8 歳の時に描いたこととなります。今から 70 年前、昭和 25 年、1950 年の絵ということです。昔懐かしい **たいへんよくできました** のハンコが押ししてあります。一生懸命描いたと認めて下さったのでしょうか。このハンコは担任の三橋先生が押しして下さったものです。きっと私も嬉しかったことでしょう。よくもこんなに古いものが残っていたものだと、不思議な感覚でその絵を眺めました。



絵の舞台は台所で、登場人物は母と、おんぶされている妹と、私です。全員が後姿とは全く驚くほかありません。母がフライパンを両手にもって、なにか、オムレツか、パンケーキのようなものを料理しているようです。フライパンという調理器具はきっと当時は珍しいものだったから、目立つように描いたのではないのでしょうか。また、ご飯は鑊釜つばで、七輪で炊いているようです。現在のキッチンでは、これらはお目にかかれな前時代的なものです。母はその当時の髪型をしています。長い髪を

二つに分けて、三つ編みを作り、頭の上で、交差させていました。また、ワンピースを着て、エプロンをかけています。ずいぶんお洒落に描いたようです。後姿ですが、母だ！とわかる感じです。

私は 6 歳下の妹をおんぶしています。最近ではおんぶ姿を見かけることがありませんが、私のお手伝いは子守りでした。

「母の日」は教会の行事でしたが、日本でもこの頃流行り出して「お母さんを描いてごらん」と言われて描いたのでしょうか。

遠い日の母の姿をこの絵を見ながら思い出しています。母と同じ学校に行きたい、母と同じようにオルガンを弾きたい、と私は母に憧れていたようです。母はもう天国に旅立って 15 年になりました。誰だって、おじいさん、おばあさんになっても、お母さんが恋しいと思いますよね。

